

桃野新会長ら校友会役員を紹介



講演する日高理事長

定時総会 2年ぶりに開催

2021年度の校友会定時総会が7月11日、東京都新宿区の京王プラザホテル新宿で開催された。校友、大学関係者ら約130人が出席。感染症対策に万全を期し、飲食や懇親会、アトラクションは行わなかったものの、出席者たちは2年ぶりの再会を喜んだ。

総会では、物故者への黙とうの後、桃野直樹新会長ら役員紹介が行われ、日高理事長による講演会が行われた。日高理事長は、創立140年記念事業への力強い支援に感謝の言葉を述べた後、今後の私立大学を取り巻く環境について語った。150年に向けて「社会の中にある社会に立つ専修人を育てることが大切。次の世代に建学の精神をつなげ、人間教育を行うことが本学の発展の原動力になる」とまとめた。



第14代会長 桃野 直樹さん

“専修大好き人間”の絆作る

「オール専修の輪を強くして、専修大好き人間」のつながりを作りたいと、専修大学校友会会長に就任した桃野直樹さん(昭42法)が、27歳で不動産仲介の東日本住宅を設立した。UR都市機構や各県の公社が扱う物件の売買をメインに扱う。「登記や手続など、専門的な知識はすべて独学。だからこ

6月19日、校友会代議員会で役員改選が行われ、第14代会長に桃野直樹さん(昭42法)が選ばれた。

桃野さんは77歳。東日本住宅(株)代表取締役、保全工業(株)代表取締役。学校法人専修大学理事・評議員、校友会副会長、校友会不動産建設黒門会相談役などを歴任。桃野さんに抱負を伺った。

掲げる。本学募金アンバサダーの顔も持ち、「コロナ禍で困難に立ち向かっている学生・大学のため、校友の皆さんには大学への寄付などの支援をお願いしたい」と語る。北海道出身。大学では雄弁会に所属し、内気な性格を克服した。卒業後、不動産関連企業を経て、27歳で不動産仲介の東日本住宅を設立した。UR都市機構や各県の公社が扱う物件の売買をメインに扱う。「登記や手続など、専門的な知識はすべて独学。だからこ

新校友会会長に桃野氏

そ、ほかの人が見ないところに目をつけ、独自の高い事業を展開することができたこと振り返る。多忙な日々の中、長男の専大附属高校入学を機に大学とのかかわりが再開した。校友会役員や校友会副会長などを務めた。

校友会員は約31万人に上る。各界・各地域で活躍している卒業生を広く紹介し、校友同士、校友と大学との交流を深めたいと考えている。現在はあまり多くない女性の参加も積極的に呼びかけていく。「校友会役員をはじめ、たくさんの方々のご意見を聞き、できることから実行していきたい。そして校友同士の絆をさらに強くしていきたい」と笑顔で語る。

校友会情報

選挙結果

▽東京都議会議員選挙(7月4日投票) 森愛氏(もり・あい)12票

毎年恒例の「グリーンカップ・ゴルフ大会」(校友会主催)。今年は感染防止対策を徹底し、「緊急支援チャリティゴルフ大会」として開催予定。

▽10月22日(金) 8時スタート(予定) 千葉県

▽泉カントリー倶楽部 ※今後の国内感染状況によっては、開催要項の変更、または中止となる可

校友新社長 紹介

片山隆文氏(かたやま・たかふみ)昭56経済)北見信用金庫理事長に6月21日付で就任。本部北海道。金融業。

池田啓一氏(いけだ・けいち)昭56経済)埼玉信用金庫理事長に6月22日付で就任。本部埼玉県。金融業。

寺崎拓路氏(てらさき・たくじ)昭60法)山交観光代表取締役社長に6月10日付で就任。本社

能力があります。詳細は校友会まで。

▽申し込み締め切り9月3日(金)

校友会事務局 ☎03・3265・7579



山形県。旅行業。アドニス96号刊行

「気を持ちよう」といふ言葉があります。何かが起こったとき、気持ちの持ち方次第でよくなる、そんな意味合いで使われます。いま私たちが何かと制限が多くなり、気も滅入りがちで日常を過ごしている。もちろん、それは仕方ないことなのだが、ここはあえて「気を持ちよう」をリセットしてみませんか。楽しみを作ります。

例えば、毎日の生活のなかに「小さな発見」や「ささやかな喜び」を見いだすなんていうのはどうでしょう。感染対策をして生活必需品の買い物がら散歩に出会おう。…。楽しんでみませんか。

花も然り。ハナミズキから紫陽花へと花々が季節の移ろいを伝えてくれます。歩道の縁石に目をやると、コンクリートのわずかな隙間にハルジオンが花を咲かせていました。生命力の強さに脱帽です。こんな「小さな発見」が「ささやかな喜び」となって日常が少し楽しくなります。

ワクワク接種が始まりトンネルの出口が遠くに見えてきました。「気を持ちよう」を工夫して乗り越えていきましょう。

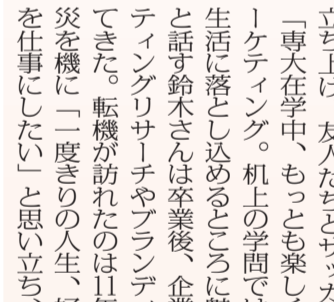
(学生相談室員・佐藤由美)

専大校友を訪ねて

Jリーグ社会連携室室長 鈴木 順さん (平7経営)

「地域密着を理念に掲げるJリーグは、クラブとホームタウンの住民、企業、学校、自治体などが連携して地域課題の解決に取り組む「社会連携活動(シャレン!)」に力を入れている。リーグ発足25周年を迎えた2018年には新たに専門部署を立ち上げ、その取り組みを強化。鈴木さんは部門のトップとして「シャレン!」推進の旗振り役を務める。同時に、日本全国に57あるJクラブ同士をつなぐハブとしての役割も期待されている。

対面での活動が難しい現状を何とか克服する一方で、「移動が制限されたことで、地域の大切さを再確認できた」とコロナ禍をポジティブに捉え、オンラインでの情報交換や活動に積極的に取り組む。コロナ収束後は、地域との関係づくりを精進した鈴木さんの知恵と経験が必要とされる場面はこれまで以上に増えるはずだ。「Jクラブが社会の公器として地域から愛され、困ったときには頼りに



立ち上げ、友人たちとサッカーを楽しんだ。専大在学中、もっとも楽しく学んだのはマーケティング。机上の学問ではなく、普段の生活に落とし込めるところに魅力を感じた。

「専大在学中、もっとも楽しく学んだのはマーケティング。机上の学問ではなく、普段の生活に落とし込めるところに魅力を感じた」と話す鈴木さんは卒業後、企業で長くマーケティングリサーチやブランディングに携わってきた。転職が訪れたのは11年。東日本大震災を機に「一度きりの人生、好きなサッカーを仕事にしたい」と思い立ち、J1・川崎フ

専修大学・石巻専修大学
「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」推進募金

皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

詳細はQRコードから

専修大学募金局 TEL: 03-3265-3157
E-mail: bokin@acc.senshu-u.ac.jp

地域とともに、ハッピーで持続可能な世界を

される。そんなハッピーで持続可能な世界をつくりたいと笑顔で語る。

専大附属高校出身で、高校や大学では自らサークルを立ち上げた。その後Jリーグの職員となり、約10年間在籍した川崎Fではグッズショップの運営や法人営業などさまざまな業務に就いたが、主に関わったのがホームタウン活動だ。障がいのある子どもたちも安心して試合観戦を楽しめる環境づくりを進めるなど、市民・地域のための活動「に尽力した。17年にリーグ初制覇をした際、もっとも印象深かったのはスタンドを埋め尽くしたサポーター一人一人の笑顔。地域密着の取り組みを重ねてきたクラブの努力が報われた瞬間でもあった」とうれしそうに振り返る。

「シャレン!」の活動テーマは教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など幅広く、そこにやりがいを感じている。「どんなに困難な目標も、多くの人が関わり強みを発揮し合うことで達成できる」。鈴木さんは連携のチカラを信じ、社会をより良いものに変えていく。